



山崎 正清さん



懐かしの「雷鳥」から
フルートレインまで

敦賀市本町でCD・楽器販売店「オリエント商会」を営む山崎正清さんは、長年にわたり趣味で鉄道模型づくりを手がけています。小学4年生の頃から作り始め、これまで作った模型の数は50車両以上。福井県民に馴染み深い「雷鳥」をはじめ、フルートレインやSLが引く特急つばめ、貨物列車など、数々の車両がずらりと並びます。

鉄道模型には縮尺とゲージ（線路幅）の違いでいくつもの種類がありますが、山崎さんが作るのは、「0ゲージ」と呼ばれる1/45スケールの模型。「寸法は頭の中に入っていますから図面を描かなくても型を起こせます」という山崎さんの模型づくりは自己

趣味と
サークル

鉄道模型 鉄道のまち 敦賀で鉄道模型づくりを



流で、ヒノキ、バルサ、真鍮、厚紙などでボディを作り、雷鳥（写真左）はモーターを動力車と2号車、4号車に内蔵しています。仕事をしながら製作するので、1両作るのに2年ぐらいかかることもあるといい、作業の緻密さを伺わせます。



作曲家として活動しながら模型づくりを継続

山崎さんは昭和6年に敦賀で生まれ、東京の音楽学校で学んだ後、コロムビアレコード、クラウンレコードで作曲家として活躍しました。有名歌手の楽曲



山崎さんの鉄道模型の一部。懐かしい車両がずらり！

や地元の「敦賀とてもすき」のほか、昭和43年に開催された福井国体のテーマ曲も手がけています。東京で作曲家として活動していた頃も鉄道模型づくりは続けており、「音楽家仲間の間で鉄道模型づくりがはやったこともありました」と思い出を振り返ります。模型だけでなく、鉄道写真を撮る「撮り鉄」、乗車して楽しむ「乗り鉄」、駅弁好きなど鉄道全般の愛好家で、「東京・敦賀間が10時間くらいかかった昭和30年代には、食堂車の他に立ち食いそばを食べられる車両があった」「敦賀の駅弁で鯛寿司が登場する前は鱈寿司が人気だった」といった懐かしの鉄道エピソードも楽しくお話しくださいました。「昔の鉄道は音も良かったですね。ガタンガタンと走りはじめてトントントンという音に変わっていくあのリズムは今の電車にはない味わいがありました」と音楽家らしい音へのこだわりも覗かせます。



敦賀市の鉄道遺産
転車台も製作中

そんな山崎さんが現在、製作中なのが、かつて機関車などの方向転換に使われた転車台です。敦賀は日本海側で最初に鉄道が敷かれたなど鉄道のまちとして発展してきた歴史があり、敦賀市では敦賀



蒸気機関車も往年の姿をリアルに再現しています。

駅の旧転車台を保存し、貴重な鉄道遺産として活用する計画も進められています。山崎さんも「敦賀は昔から鉄道の要所。転車台を市の名物として活用してほしいですね」と期待を寄せています。

現在86歳。「家の中はカンナ屑だらけになるし、塗装で汚れたりして、家族からは文句を言われますが、やめられません」と話す表情は、なんとも生き生きして楽しそう。模型づくりの趣味を楽しんで続けていることが、山崎さんの元気の源となっています。

（本件に関するお問い合わせ先）
●オリエント商会 山崎様
TEL 0770(22)0373